

「健康Action2025」の取り組み実績（2024年度）

■ 活動実績

※データの集計範囲は国内グループ会社

こころとからだの健康

- 目指す姿
「こころ」と「からだ」の自律的健康管理を促進し、社員一人ひとりの「働くこと」と「健康」の調和を実現する。

意識の変容・行動変容に関する指標		目標 (2025)	2022	2023	2024
ストレスマネジメント	ストレスによる心身の変化に気づくことができる人の割合	前年度より増加	—	82.0%	81.0%
	ストレスの要因を把握できている人の割合	前年度より増加	—	87.3%	86.7%
	ストレスを緩和する方法を実行できている人の割合	前年度より増加	—	75.3%	75.9%
	困りごとを自ら相談できる人の割合	前年度より増加	—	73.3%	74.0%
健康的な生活習慣行動 9 項目のうち 6 項目以上ある人の割合		50%以上	42.8%	43.9%	44.9%
体格	適正体重* ¹ 維持者の割合	60%以上	62.5%	62.5%	62.6%
	前年度、過体重* ² ・肥満者* ³ の内 3 %以上体重減少した人の割合	22%以上	19.2%	19.4%	18.3%
受診率	定期健診結果要医療者の受診率	90%以上	83.8%	89.8%	90.5%
	がん検診の要精密検査者の受診率	90%以上	67.0%	71.1%	70.7%
柔軟性・筋力の低下（ロコモ）が予防できている人の割合		38.0%より増加	—	38.0%	39.3%

*¹ 適正体重: BMI18.5～24.9 *² 過体重: BMI24.9～29.9 *³ 肥満: BMI30～

□ 上記目標が達成することで、将来的に期待される項目および目標値ではないが経過を追っていく必要のある項目を健康状態の変化として経年的に確認をしていく。

健康状態の変化	2022	2023	2024
メタリックシンドローム該当者/予備群の割合	22.1%	22.5%	21.5%
血圧有所見者の割合	9.8%	9.9%	9.2%
脂質有所見者の割合	30.9%	30.1%	30.4%
糖代謝有所見者の割合	8.8%	9.5%	9.4%
高ストレス者の割合	9.2%	8.5%	9.1%
腰痛がある人の割合	21.8%	22.3%	21.8%

活動内容	活動の実施度合
情報発信・啓発活動	実施率95.0%
ヘルスリテラシー教育（睡眠）	e-ラーニング 受講率88.6% 理解度99.8%
ヘルスリテラシー教育（がん）	e-ラーニング 受講率88.1% 理解度99.8%
体重に着目した保健指導	実施率100%
がん検診要精密検査者への受診勧奨	実施率100%
ストレスマネジメント向上支援	実施率100%
卒煙支援	実施率100%
健康づくり活動 全社ウォーキングイベント	参加率 春37.7% 秋44.0%
健康的な生活習慣行動ができる人を増やす健康づくり活動	実施率100%
ロコモ推進活動	実施率68.4%
体の変化に気づく機会の提供	実施率85.0%

職場の健康

- 目指す姿
働くこと・働く環境により、健康を害することがないように必要十分な安全配慮を行う。
チームとしていきいきと働くことができる職場風土を醸成する。

意識の変容・行動変容に関する指標		目標 (2025)	2022	2023	2024
1か月以上のメンタル不調による休務者割合		0.80%以下	0.97%	0.98%	1.02%
長時間労働者健診対象者による健康障害の発生件数		0件	1件	1件	1件
職場・事業所内での感染症の集団感染件数		0件	2件	0件	0件
組織風土	高リスク職場数	0職場	7職場	12職場	10職場
	高リスク職場継続・再発職場数	0職場	4職場	2職場	1職場
	ワークエンゲージメント	2.52以上	2.49	2.50	2.48

活動内容	活動の実施度合
ラインケア教育の実施	参加率88.0%
メンタル不調による休務復帰時の振り返り支援の実施	実施率100%
リスクの高い職場への改善支援*1	実施率100%
支援を求めている職場への支援*1	実施率100%
職場改善好事例の展開*1	実施率100%
長時間労働者に早期段階での健康障害予防情報提供実施	実施率100%
感染症のリテラシー教育	e-ラーニング受講率 91.7%

*1：データの集計範囲はセイコーエプソン単体

結果総括

- ◎ 策定した活動を計画通り実施した。
- ◎ 今後も目標達成に向けて各種活動の展開を継続していく。
 - ・2022、2023年度はスローガンにある「気づく・学ぶ」を中心に活動し、2024年度は「行動する」ための健康づくり活動を中心に活動をした。最終年度も引き続き「行動する」ための活動を中心に活動していく。
 - ・一部、改善が認められなかった項目および目標値と実績が乖離している項目があるため、取組みの強化をしていく。